

③チャレンジ エコクッキング (小学校中・高学年)

〈ねらい〉

子どもたちの大好きな調理実習。その調理実習を利用して、ゴミの減量と分別についてエコクッキングにチャレンジします。エコクッキングを通して、『ゴミ問題』、『食糧問題』(食教育)について子どもたちと一緒に体験してみましょう。

〈すすめ方〉

1. 調理計画を立てる
2. 日に、子どもたちが買い物をします。(できるだけ、プラスチック包装や過剰包装をさけるようにします)
3. ゴミは、グループごとに分別しながら調理する
4. 会食
5. 後片付けをする
6. 野菜の切りくずなど、土にかえるものはコンポストに入れたり、土に埋めたりする
7. グループごとに出たゴミの重さを量り(プラスチック包装、生もの、紙類)、記録します。
8. エコチェックを3段階で自己評価しましょう。

〈指導にあたって〉

☆ ゴミの少ない食材探し

プラスチックの包装があるもの、包装が過剰なものを購入することで、ゴミが増えてしまいます。これは、ゴミも買っているということなのです。食材探しの時点でゴミを減量することができ、重要な活動なのです。

☆ ゴミをはかる

片づけまですべて終わったところで、出たゴミをプラスチック包装類、生物、紙類に分別し、かさ比べてみたりその重さを量ったりしてみましょう。プラスチック包装類が重さは軽いのにかさ大きいことに驚かされます。そして、これらのゴミの量に関わってダイオキシンの発生・土壌汚染・最終処分場の限界などのゴミ問題が発生しているのです。

クラス全体で比べることで、少ないグループの方法を参考にしたり、ゴミの減量への意欲を喚起できます。年間を通してとりくむことにより、ゴミの量をより少なくしていこうという意識も芽生えます。

☆ 土にかえそう

野菜の皮や切りくずなど、『生ゴミ』になっていませんか?コンポストを利用したり、土に埋めることで微生物の力を借りて、生命をはぐくむ肥料へと再生します。土に戻るものはゴミではありません。土に戻るものは、土に返すことも**ゴミの減量・再利用**なのです。

日本の最終処分場は、なんとアメリカの168個に大差をつけてダントツの1位である。それにとってもなうダイオキシンの発生量は、世界の環境先進国のおよそ10倍の量であるとい

日本	1490
アメリカ	168
フランス	100
ドイツ	51
スウェーデン	21
イギリス	7

ゴミ焼却炉の数

**焼却炉の数、世界一は
だんとつ日本だった**

ヨーロッパでの4R

- REFUSE (リフューズ・やめる)
- REDUCE (リデュース・減らす)
- REUSE (リユース・再利用)
- RECYCLE (リサイクル・再利用)

としてこの地球に残されてしまい、未来の環境が懸念される。

4Rに希望の光

4Rとは、ヨーロッパの環境推進国のゴミ処理の原則である。ヨーロッパはこの4Rにより、ゴミを大幅削減することに成功した。教室でも、このゴミ問題を解決するべく、小さな一歩ではあるが、みんなで大らかな一歩にできよう、4Rにとりくんでいってはどうだろうか。

の調理をしよう

（ ）年（ ）組 名前（ ）

できあがり予想図	材料（ ）人分																				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">材料</th> <th style="width: 30%;">数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	材料	数量																		
	材料	数量																			
作り方	ポイント・くふう																				
	用具																				

エココーナー

生ゴミの重さ	g	
容器包装ゴミの重さ	g	
今日のエコチェック		
◎	○	△
（ ）	（ ）	（ ）

感想